全国浴場新聞
発行所 全国公衆浴場業環境衛生同業組合連合会
東京都千代田区東神田1-16-2
TEL 03(5687)2635
購読料 1部 100円

まごころで奉仕する
東谷信用組合

全浴連代表者会議開く

通常総会提出議案を審議

予算案、事業計画骨子づくり

全浴連（綾部雅紹理事長）は、三月七日、全浴連会議室で代表者会議を開き、平成七年度予算、税制改正、浴場業振興指針の一部改正、ビジョン作成委員会の報告事項および三陸はるか沖地震、阪神大震災、平成七年度の収支予算案、規制緩和対策などの協議事項について協議、意見を交わした。

綾部理事長挨拶のあと議長に西田実（大阪府浴場組合理事長）、副議長に水木茂（香川県浴場組合理事長）の両氏を選出し、業界の要望の一端を反映すると云うことになったが、引き続き議題の主題とする相続税など関し、実現に向けて今後も全力を傾注していきたいー」と、振興指針の一部改正については高橋元監事副理事長から「今回改正のような年度予算、税制改正、ビジョン作成委員会の報告事項および三陸はるか沖地震、阪神大震災、平成七年度の収支予算案、規制緩和対策などの協議事項について協議、意見を交わした。

全浴連（綾部雅紹理事長）は三月六日、全浴連会議室でビジョン作成検討委員会を開き、木村泰三氏を中心とする スタッフからこれまでの経緯の説明があり、合わせて報告書の作成に向けての基本方針が報告された。

これについて各委員との間で意見が交わされたが、ビジョン委員会として、公衆浴場の利用者、未利用者に対するアンケート調査を実施するとともに、公衆浴場経営者、後継者の対する意識調査を行ってきた。

それらのアンケート調査の概要は三月末までに集計され、これを基に「ビジョン作成委員会」で検討することとなっているが、浴場の経営者、後継者において業の存続に意欲的、積極的な各層の立場で、さきに行った公衆浴場利用者、未利用者の動向を勘案し、ビジョンに盛り込みたいとして、六月の富山県における報告書内容を提示。その後、ビジョン報告書として各地に配布、活性化と今後の方策についての参考に供したいとすることとした。また配布方法などについては今後検討していくことと云われた。

なお、利用者、未利用者に対するアンケート調査の概要は、三面参照。

もし、こうした事柄が事実にするならば、これまでに独特の歴史と文化を持ってきた先人の知恵について、いま改めて深く考えてみる必要があるのではなかろうか。そうえて、二十一世紀に向けて、これから昔からある種の国際化を経験しており、異質な文化を受容吸収しつつ、柔軟性に富んだ社会革命などとなりてきたいとある。

とかく、日本はさまざまな顔を持った国として、しばば指摘されてきたが、これは歴史の後継性がもたらすものではなく、多様な国土と日本の文化と民族性に色濃く反映しているからにほかならない。

われわれは、この日本と独特な国土を持つ列島を基盤として、自然と共存、後継者において業の存続に意欲的、積極的な各層の立場で、さきに行った公衆浴場利用者、未利用者の動向を勘案し、ビジョンに盛り込みたいとして、六月の富山県における報告書内容を提示。その後、ビジョン報告書として各地に配布、活性化と今後の方策についての参考に供したいとすることとした。また配布方法などについては今後検討していくことと云われた。

なお、利用者、未利用者に対するアンケート調査の概要は、三面参照。

写真は全浴連代表者会議

ビジョン作成委員会

報告書提出へ意見交換

ロッカー・棚立・傘箱・下足箱
有限会社 東京錠前製作所
東京都品川区亀戸1-6-7
TEL 東京(3623)1626

富山県大会準備急ぐ

全国業者多数参加を！

全浴連（綾部雅紹理事長）月六日（火）に富山県の「富山第一ホテル」（富山市桜木町一〇一一〇）でそれぞれ開催される。

富山県は、平成七年度の全国浴場業者大会は東海北陸ブロックの富山県で開催される。

通常総会は六月五日（月）から、「業者大会は六

公衆浴場利用者、未利用者アンケート調査

1、調査目的　利用者、未利用者の入浴実態と公衆浴場に対する意識の実態を調査し、消費者の意識の変化を探ることを目的として、これから公衆浴場の実態のギャップを明らかにし、より多くの人々に利用していただく公衆浴場を提供していくことがねらいである。

調査設計　今回の調査は①利用者の利用状況と利用理由、入浴に対する意識などのアンケート調査。②未利用者の公衆浴場に対する意識調査。③未利用者の入浴意識及び入浴に対する意識のアンケート調査。

以上から構成されており、各調査の概要は次のとおりである。

①利用者アンケート調査
調査目的＝利用者の入浴意識と公衆浴場に対する積極性を明らかにし、今後の利用促進の方策を把握。
調査策＝全国三〇都市の公衆浴場を利用している男女
○歳～八〇歳までの男女
調査時期＝一九九二年一月。
調査内容＝利用状況の実態。利用理由。公衆浴場の料金に対する意見。健康ランドなどに対する意識。入浴意識に対する意識。

②未利用者アンケート調査
調査目的＝未利用者の入浴意識に公衆浴場に対する認識を明らかにし、今後の利用の可能性を探る。
調査策＝全国三〇都市の未利用二〇歳～八〇歳までの男女一〇～九〇。
調査内容＝一九九二年一月。

▽調査内容＝未利用理由。公衆浴場に対する意識。公衆浴場に対する意識。
▽調査対象＝利用者。入浴に対する意識。

Ⅰ　公衆浴場利用状況の実態

ためには、まず現在利用している公衆浴場の様子人達なのか、そしてどの度の頻度で利用しているのかを知る必要があります。ここでは主に利用者に対する意識を絞って浴場を利用している理由を聞いたところ、自家風呂があるにもかかわらず、自家風呂があっても故障中等は利用者（六四人中四五人）と全体の二三％となっている。ことからもわかるように、自宅風呂があっても公衆浴場を利用する人達の方が多くなりつつあるようです。

○更に今回の利用者の利用頻度を見てみると、毎日の人が四五％、週に二～三回の人が四五％と頻繁に利用している。ことからもわかるように、自家風呂があっても故障中等は利用者（六四人中四五人）と全体の二三％となっている。ことからもわかるように、自宅風呂があっても公衆浴場を利用する人達の方が多くなりつつあるようです。

○更に今回の利用者の利用頻度を見てみると、毎日の人が四五％、週に二～三回の人が四五％と頻繁に利用している。

○利用者は、公衆浴場を利用する理由を聞いたところ、自家風呂があっても故障中等は利用者（六四人中四五人）と全体の二三％となっている。ことからもわかるように、自宅風呂があっても公衆浴場を利用する人達の方が多くなりつつあるようです。

○更に今回の利用者の利用頻度を見てみると、毎日の人が四五％、週に二～三回の人が四五％と頻繁に利用している。

(1)利用者の自家風呂所有の関係と利用頻度について
家にお風呂があってもわざわざお風呂さんに行く。お風呂があっても家庭風呂より気持ちいい？
○利用者は、公衆浴場を利用する理由を聞いたところ、自家風呂があっても故障中等は利用者（六四人中四五人）と全体の二三％となっている。ことからもわかるように、自宅

公衆浴場の広告塔

岡嶋武夫

公衆浴場は装置産業であるから、良い設備、企画、宣伝に力を入れなければ、この装置産業を二つに分けて製造業とその他の産業に分けて考えてみると、次のようなことがわかる。

製造業の場合はその製品が一般生活者に大いに関係があり、使用されているものであれば、その製品は広告宣伝をする必要があるが、その製造所の所在地などは特に宣伝の必要がない。

これらの例としては、薬品、化粧品、家庭電化製品などであり、共に宣伝の必要がない業種は製紙、製鉄、造船などである。

これは一ユーザーが大企業や一般企業や大卸であって一般の生活者ではないので必要がないのである。

実際に広告・宣伝をしているのは、企業のイメージアップや社会奉仕の精神で行っているのである。

もともと装置産業は待ちの商売であるから、交通の便、良い設備、宣伝力、企画力、良い環境が売り物である。

例えば、野球場、劇場、遊園地などである。

装置産業は一般の小売のように所、商、配達できないのであるから、良い設備、企画、宣伝に力を入れなければならないのである。

これは、サラリーマンの人が駅までの往復の道で、今度は、どこの店が閉店になるだろうかなどと、どこの店が閉店になるかを知っているものである。

これは同様に、浴場業で定休日を変えたり、臨時休業したりしたとき表にビラを貼り出しているが、逆に表がビラを貼り出しても、日常浴場の前の道を通る人は限られた人である。

まして、自分の通常歩く道を通ることは滅多にない。

これは、自分の通常歩く道を通ることは滅多にない。

また、自分の通常歩く道を通ることは滅多にない。

また、自分の通常歩く道を通ることは滅多にない。

また

浴場余話

大原十六

文字通によるあか、四、五人集まっての茶話会。「どうして せんとうというのかな」

「せんとうとは、「ゆ」は湯に通せっていうが、「せんとは何というこを言うの か。「せんは洗（あらう）と字であろう。「いやいやそれは違う。その意にかんねはい。尊も賤しきも入るという意味で、いやいやこういう賤の字だろう。「これは面白いことというが、ちと理屈っぽい。せんとは船ということで、これは面白い。きりながら銭を払って入る湯だから、せんは銭（せに）という字でござる」

この時、ひょうきん者がしゃべり出ていう。

「どれにも理由はある。船はいいが、いやときいろう賤の字は話にならぬね。京のあたりでは、せんとうを主として「洗湯」と言っている。

元禄三年の小咄集『かの子はなし』から、貴答ほしい。

昔、天皇が譲位しての後は上皇と呼ばれた。上皇の御所を仙洞といった。転じて上皇の尊称であった。

「仙洞は湯屋の事かと問ふ野人」という川柳がある。

湯ゥ屋の噂雑士（さむらい）、風呂の噂雑を はじめ、「これ亭主 噂雑の相手を出しやれ」亭主「もう風呂は誰もおりませぬ」といえば、「ナニ居るまいだと」大裸になり風呂へ飛び込み、「湯番、笊をかしやれ」

安永二年・近眼貫

男湯の噂雑

全玉が降るような湯の噂雑洗湯でよく気に抜き身べり廻し

抜身の中へ飛ぶは湯番なり

女湯の噂雑

女湯でかっぁに内儀はひ」まとなりあっている。

湯番「これさ二人共さんたが呼び名ってあるぞ」

「ありやとよくおれが勢丸はなし」から、貴答ほしい。

鐘楼にとり場に着物をぶるっさる拍子、袂のふんどしふっはりと、向この奴（やつの尊様にかかる。すは一大事と、大勝がかたつを奔って見に居るに、此奴、一丹腹立ち拾ひをしやった」と云へば、此男ほほほほとして「いやあまりに合もちさらぬ」湯番「此の人は欲の深い、命褌」

「つらういにかへられる物か」「いや、角（すみ）に金が二歩有た」「つくい苗」

新しく来た下男に、「風呂の加減はどうだ」と言うと、

「へえ」と言って茶碗へ一杯汲んで来、「いてるかえ、どや、元気か」「こんな気楽なことおまへんな」「弟にちょっとこつけがおいるっきるの